

OLC オアシスライフ・ケア

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災を期に

オアシスチャペル利府キリスト教会によって設立された非営利のボランティアグループです。

目次

挨拶	活動理念	諸活動報告	会計報告
オアシスライフ・ケアの代表である松田牧人 牧師（利府キリスト教会）からの挨拶です。 ページ 1	私たちのミッション・ビジョン・プランを紹介します。 ページ 2	私たちがこれまでに行ってきた様々な活動を紹介します。 ページ 3-5	2011年3月11日から5月31日までの会計報告です。 ページ 6



挨拶

使命は揺れ動かず

震災が起こって、これまで以上に「使命」というものについて考えさせられています。私自身の使命、家族としての使命、そして、教会の使命です。

歴史をさかのぼってみると、私たちの教会は、昭和初期の貧しい農村であった利府村のニーズに仕えるところからスタートしました。特に、斎藤久吉名誉牧師やリビングストーン宣教師のリーダーシップのもと行われた、「地域奉仕」「人材育成」「国際交流」という3つの領域での働きは顕著なものでした。農繁託児所、農民福音学校や聖農学園、森郷キャンプ場の働きは、一般的な教会の働きとはひと味違う独自性を持った働きでした。しかし、これらの働きの母体である教会そのものが弱体化する中、働き自体も徐々に本来の輝きを失ってしまいました。



このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。
マタイ5:16

しかし、ここ10年の間で、利府キリスト教会は「オアシスチャペル」として新たに生まれ変わり、力強い歩みをするようになってきました。聖書を中心にしてリーダー養成が行われ、礼拝も、交わりも、奉仕も、伝道の働きもイキイキと行われています。「さあ、これからさらに羽ばたいていこう」というところで、3月11日の震災が起こったのです。

あまりの衝撃にしばし呆然としてしまいましたが、震災数日後から給水車のまだ来ていない地区に井戸水を配る働きを

始めました。地域のために何かせずにはいられなかったのです。これは「オアシス」を象徴する働きでした。その後も、CRASH Japanをはじめとする支援団体から助けを受けながら物資の配布等を行い、それが基礎となってこの「オアシスライフ・ケア」の働きが生まれました。現在は、特に南三陸町の沼田地区に深く関わるようになっていきます。

この働きは、震災が起こったから急に思いつきで始めた何かではなく、この教会の歴史を導いておられる神様の計画の中で始まったものです。この働きは、狭い意味での被災地支援にとどまらず、この地域に「地域奉仕」「人材育成」「国際交流」を通して、イエス・キリストのオアシスを広げる働きであり、この教会の使命である「オアシスミッション」を推進する働きです。ぜひ、この働きを広く、深く、長く続けることができると、祈り、協力し、支えていただけたら感謝です。これからもどうぞよろしく願いいたします。

オアシスライフ・ケア 代表 松田牧人



OasisLife CAREの活動理念

わたしたちのミッション・ビジョン・プラン

—Mission—

使命

わたしたちの使命は、

宮城県をはじめとする東日本
大震災被災地域において

キリスト教精神に基づく
支援活動を行い、

人々の心と人生に「あなたは
ひとりじゃない」というメッ
セージを届けることです。

—Vision—

目標

この東北の地において

“今日(いま)”

の必要が満たされますように

“明日(みらい)”

の必要が満たされますように

“永遠(とこしえ)”

の必要が満たされますように

—Plan—

計画

【今日のための働き】

—緊急の必要に応える働き—

- 生活物資の供給と片付けボランティア
(CRASH Japan等と連携)
- CRASH Japan 仙台ベースキャンプの
設置運営に協力 (宮城県利府町)

【明日のための働き】

—生きていく励ましとなる働き—

- 励まし物資の供給
(少年野球の道具、音楽CDなど)
- ゴスペルワークショップ、
慰問コンサートなどの音楽ボランティア
- 生きる希望につながる心のケアセミナー
- 未来を切り拓くリーダーの研究と育成

【永遠のための働き】

—深い心のケアの働き—

- 永遠に備えるためのパストラルケア
(オアシスチャペルと連携)



これまでの活動紹介

2011.03.11-06.11

オアシス給水プロジェクト



震災から数日、まだまだ停電している世帯も多く、テレビも映らない状況の中で、人々は不安でいっぱいでした。自宅にあった食べ物でなんとかやりすこし、寒い中で給水所の長い列に並ぶ日々。ガソリン不足で車もダメ。給水所の近くに住んでいても高齢の方にとって水汲みは困難な作業でした。

そのような中、教会員Sさんが自宅の井戸水（普段も飲料用に使っている美味しい水）を提供してくださり、私たちは一軒一軒「水は間に合っていますか？」とお聞きし、水をお分けしました。みなさんの安堵の笑顔にこちらが励まされました。震災3日後から約2週間継続したこの活動を通して、私たちは改めて「教会は地域のオアシスだ」と確信しました。この期間、教会員の多くが、自分も困っている中「地域の方々を助きたい」という心で懸命に仕え、持っている僅かなものさえも分け与えました。ここからオアシスライフ・ケアの動きは始まったのです。

「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5:16）

2011.03.14

七ヶ浜町に自転車を寄贈



津波によって自転車を失った中高生たちのために、私たちは自転車10台を寄贈させていただきました。

宮城県七ヶ浜町は、今回の震災によって甚大な被害を受けました。10mを超す大津波が押し寄せ、町内の沿岸地域は壊滅的状態になりました。中高生たちは、移手段として使っていた自転車を津波で失ってしまい、学校へも通えなくなってしまいました。

私たちは、利府町の町議会議員さんを通してこの話を聞き、中高生たちのために自転車を用意できる支援団体を探しました。今回の震災により各方面で自転車が必要になり、支援物資として用意されている自転車はすぐになくなってしまおうような状況でしたが、CRASH Japanさんのご協力により調達することができました。そして無事、七ヶ浜町役場に自転車を届けさせていただくことができました。

今回の動きに協力していただいたCRASH Japanさん、小沢輪業さん、本当にありがとうございました。

2011.04.22

ベビーシッターボランティア



震災後、疲労が溜まっているお父さん、お母さんたちに、夫婦そろって少しでも休んでいただく時間を作ろうと「ベビーシッターボランティア」を企画しました。支援活動の先頭に立っている牧師先生方のお子さん達や自衛隊勤務の方のお子さん達など、子どもたちは0歳から小学校高学年まで13名。そして大人は、CRASH Japanから来てくださったボランティアの方々を含めて6名の参加となりました。

素晴らしいお天気のもと、大きな公園に行き、長い滑り台やアスレチックを楽しみました。子どもたちは疲れ知らず！教会に戻って美味しい食事を食べ、チビちゃんたちはお昼寝。大きな子どもたちは外の公園に出て遊ぶ、遊ぶ、遊ぶ！ようやく(?) 疲れて屋内に戻ると、今度はクレープ作り。思い思いの材料で特製クレープを作った頃に、ご両親が戻って来られたので一緒に頬張る...

ご両親たちからは「本当にゆっくり休めました」「久しぶりに夫婦でデートができました」と感謝のことばをいただきました。それが何より嬉しく恵まれた一日になりました。

2011.05.04

少年野球チームへの支援



人々の“未来のニーズ”に応えることが、オアシスライフ・ケアのビジョンの一つです。私たちは人々に生きる力を与える働きを進めていくことを目指しています。

今回の少年野球チームへの支援は、まさに私たちのビジョンに適った働きだったと言えます。オアシスライフ・ケアでは宮城県女川町と塩竈市にある2つの少年野球チームに対し、CRASH JapanさんとJMCトムスポーツさんの協力を得て、野球道具を支援物資としてお渡しすることができました。震災によって、子どもたちは愛用していた野球道具を失い、大好きな野球をすることができなくなってしまいました。子どもたちは精神的に大きなダメージを受けたことでしょう。チームの方の話によると、実際女川町の少年野球チームの子どもたちは震災以来の避難所生活が続き、多くのストレスを抱えていたそうです。生活するための最低限のスペースしかなく、遊ぶ場所も限られるところでの生活は、子どもたちにとってとても辛いものでしょう。支援させていただいた2つの少年野球チームは、これまで通りの活動はまだ難しいそうですが、徐々に再開に向けて動き出していると指導者の方々は仰っていました。

お渡しした「励まし物資」が、子どもたちが再び大好きな野球に打ち込むために用いられることを願っています。今後もオアシスライフ・ケアでは、人々を励ますための活動を続けていきます。

※お渡しした野球道具一覧

グローブ 42個 バット 17個 バッグ 4個
ヘルメット 7個 ボール 72個
キャッチャー防具セット 2セット etc

女川町 2011.04.16 塩竈市 2011.05.15

ドイツでのチャリティイベント



ドイツの都市フライブルクで、オアシスライフ・ケアのスタッフ菊地の知人N氏（ドイツ在住の日本人サッカー指導者）が東日本大震災のためのチャリティイベントを開催してくださいました。地元サッカークラブや元サッカー日本代表である矢野貴章選手（SCフライブルク所属）、フライブルク在住の日本人の方々と協力して、募金やサッカーグッズを集めるイベントを企画してくれたのです。

「被災地支援のためにこちらで出来ることを模索している。地元サッカークラブと協力して何かプロジェクトをしようと思うのだが、今必要なものを何でも言ってくれ」というメールが、スタッフのもとに届きました。

私たちは、どんな支援物資を送っていただくのが一番良いかを考え、「ヨーロッパでしか手に入らず」「子どもたちが喜ぶ」として、現地のサッカーグッズをお願いしました。ヨーロッパのサッカーチームのユニフォームなどは、日本では限られたチームのものしか手に入りません。そこで、避難所にいるサッカー好きな子どもたちや、今回の震災の影響で廃止になったサッカースクールの子供たち、レアなサッカーグッズをプレゼントすれば喜ばれるのではないかと考えたのです。現在、ドイツからの荷物が届くのを心待ちにしているところです。

このチャリティイベントを開催するために、企画から運営まで幅広く労ってくださったNさん、矢野貴章選手、サッカークラブの皆さん、チャリティイベントに協力くださった皆さん、本当にありがとうございます！

2011.05.15

南三陸町への支援（1）



まずは視察のため、宮城県本吉郡南三陸町を訪れました。空の青さと新緑の美しさを見る時、大震災は嘘のようでした。しかし、のどかで美しかったはずの森の中にまで津波が押し寄せ、瓦礫が散乱している様に驚愕させられました。

今回は、懇意にいただいている利府町の議員さんらのご紹介で、被災者でありながら南三陸町で精力的に救援活動を行っている方々とお会いし、お話を伺いました。未だに断水が続き、川で洗濯をするような生活をしておられました。自分たちで仮設住宅を建てている方々もおられました。よく言われることですが、行政やNPOの支援が手厚く行われているところと、そうでないところとの格差があることを肌で感じました。そして、そのような格差が、同じ地域の住民であり被災者である方々同士の間には大きな摩擦をもたらしていることも知りました。今回の訪問では良い出会いがあり、じっくりとお話をお聞きすることができました。生の声をお聞きして、今後、一体どのような支援をすべきなのか深く考えさせられました。

支援の第一段階として、来訪することになっていた東京の人形劇団（被災地を巡って子どもたち対象の公演をしている）に同行してスタッフが再度訪問をさせていただき、行政等の支援が行き届かない方々に必要な支援物資をお届けしました（人形劇団の支援活動については、別な記事で詳細に記します）。生活物資や励まし物資（現地の方から希望があった女性用のポーチ30個）をお届けし、とても喜んでいただきました。これまでに6便ほど物資をお届けできました。今後も続けていきたいと思っております。（2へ続く）

2011.05.17

被災家屋・店舗の片付け作業



未曾有の大震災により、多くの家屋や店舗、工場が大きなダメージを受けました。被害にあった建物では、人々が毎日のように瓦礫撤去や泥かきに汗を流していました。救援作業のために多くのボランティアワーカーが導入されましたが、オアシスライフ・ケアでも石巻市や塩竈市、仙台市蒲生地区でのボランティア活動をさせていただきました。

蒲生地区では、スタッフの菊地が塩釜聖書バプテスト教会の救援活動に同行させていただき、泥かきや家財道具の清掃作業を行いました。石巻市では、CRASH Japanさんに協力いただき、倒れた民家のブロック塀の解体・撤去を行いました。塩竈市でも、CRASH Japanさんの協力を得て、相原酒店さんの店舗横空き地に流されてきた倒木や電化製品、屋根などの瓦礫撤去を行いました。

震災から2ヶ月、支援先の方々はほとんど休みもとらずに、瓦礫撤去や泥かき、建物の修繕といった作業をひたすら行ってきてそうです。再スタートを切るために、今やらなければならないことを地道に行っていたのです。ほんの少しではありますが、私たちがそれらの活動のお手伝いをさせていただけたことは大変感謝なことでした。

オアシスライフ・ケアでは、今後も地域の人々のために、その時々で必要とされている支援を行っていきたいと考えています。

2011.05~06

人形劇団「花かご」の公演



オアシスライフ・ケア（利府キリスト教会）主催で、東京の人形劇団「花かご」（現代座）の公演を行いました。

「花かご」さんは今回、南三陸、東松島などの被災地を回って来られ、大いに喜ばれたそうです。そして今日は利府の子どもたちのために劇を披露してくださいました。人形劇だけでなく手話や歌もあり、約1時間の間、子どもたちの目は劇に釘付けで、笑顔がとて輝いていました。子どもたちの後ろで観ていた大人の方々も、楽しい劇と子どもたちの笑顔を見て微笑んでおられました。

この劇の最後で歌われた曲は、被災地の皆さんへの応援歌だったのですが、歌の途中で泣いている子どもも見られました。子どもたちは公演を見ながら自分の感情をとて豊かに表現していました。笑い、涙し、喜びや悲しみといった自分のありのままの心を外に出していたのです。まさに、人形劇が子供たちの心のスイッチをオンにしたと言っていいでしょう。

被災地の子どもたちは、環境や周りの人間の微妙な変化に何かしらのダメージを心にかけているはずですが、それを回復していくためには、心に溜まっているものをまずは出さなくてはなりません。古いものを外に出して新しいものを入れていくのです。自分の思いを溜め込まずに正直に表現する必要があります。今日の人形劇には、子どもたちの心の扉を開く効果がありました。大人の私たちがさえ、笑い、希望を与える歌に心を打たれたのですから。

素晴らしい人形劇を催すことができたことに感謝します。人形劇団「花かご」の皆さん、心の琴線に触れる素晴らしいお芝居を本当にありがとうございました！

2011.05.23

南三陸町への支援（2）



私たち人間は、今日を生きるためのニーズ、明日（未来）を歩むためのニーズ、永遠のニーズを抱えて生きています。南三陸町を訪ねた際、「この国、この地域の未来のため、一番必要なものは何だろうか？」と考えさせられました。

Aさんという初老の男性とお会いしました。彼の住んでいた集落の大半の人々が津波に流され命を失いました。家ももちろんありません。しかし、彼は、集落の生き残った人々に声を掛け、自分たちで仮設住宅を建て共同生活を始めました。井戸を掘り、畑を作り始めました。私たちがその場所をお訪ねすると、男性たちは顔を真っ黒にしながら生き生きと畑仕事をし、その目の前には青々とした野菜が育ち始めていました。断水率99%の南三陸町で、彼らの掘った井戸は多くの人々の助けになっています。

私たちは思いました。被災地域の未来に必要なものは何か…。そして、最も足りないものは何か…。それは「リーダー」である。人々の幸福のために犠牲を払い、決断をし、人々を励まし、仕えるリーダーが必要とされている…。政府、東京電力、様々な組織を見ても、いかにリーダーが重要であるかを感じます。もし、Aさんという一人の男性が立ち上がり、声をかけ、悲しみの最中で自ら献身的に労苦するというをしなかつたら、周りの人々はどのような2ヶ月を送ったでしょうか。おそらく、あの井戸も野菜も見ることはできなかったでしょう。

リーダーこそが必要であり、リーダーこそが不足している…。私たちは、微力ながらこの地域の未来のために、能力・知識・人格において優れたリーダーを生み出す働きに携わっていきたく願っています。

2011.05.20

会計報告

オアシスライフ・ケアの働きは、多くの方々のご支援、ご協力によって成り立っています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。この働きを長く、効果的に続けていくため、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

2011年3月11日～5月31日までの収支報告

	合計金額	科目
収入	¥2,815,331	献金、支援金
支出	¥ 474,664	スタッフ人件費、被災地に届ける物資、機材・備品、ガソリン代 他

上記の通り報告いたします。

2011年6月11日

支援金窓口

【三菱東京UFJ銀行】

支店名：仙台支店 口座番号：普通 0242364

口座名：オアシスライフ・ケア 代表 松田牧人

【ゆうちょ銀行】

・他金融機関より

店名：八一八（読みハチイチハチ） 口座番号：普通 4130375

口座名：オアシスライフ・ケア

・ゆうちょ銀行より

記号：18110 番号：41303751 口座名：オアシスライフ・ケア

※これまでご利用いただいていた七十七銀行とゆうちょ銀行の口座もご使用できますが、新しい専用口座ができましたのでそちらに移行させていただきます。

関連情報

スタッフ

代表：松田牧人（オアシスチャペル利府キリスト教会 牧師）

スタッフ：菊地祥彦

スタッフ：國分圭介

スタッフ：郡山英明（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

スタッフ：松田 献（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

スタッフ：三浦良太（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

会計：渡辺綾子

連絡先

事務所：〒981-0104 宮城県宮城郡利府町中央2-5-1
(利府キリスト教会内)

電話・FAX：022-356-2494（利府キリスト教会）

E-mail：oasislifecare@gmail.com

賛同者

尾山清仁・キャシー（聖書キリスト教会東京教会・牧師）

加賀洋子（ASKアカデミー・ジャパン株式会社 CEO）

葛西浩二（有限会社テレビジョンワークス・代表取締役）

Kaz Kato（ミュージシャン）

郡山榮次郎（心療内科医）

篠田真宏（ゴールデンルールリミテッド・代表）

中村佐知（翻訳者／心理学者〈Ph.D.〉／JCFN理事）

藤原淳賀（聖学院大学総合研究所・教授／恵約宣教教会・牧師）

日野 哲（東北学院大学・総務部長）

松田和憲（関東学院大学工学部・教授／関東学院教会・牧師）

渡邊忠雄（元 東北大学大学院工学研究科・教授／

中国 <瀋陽> 東北大学・客員教授）

※50音順／敬称略／2011年6月11日現在

Webサイト

ウェブページ：<http://oasislifecare.org/>

Facebookページ：<http://www.facebook.com/OasisLifeCARE>

Twitter：<http://twitter.com/#!/OasisLifeCARE>